



【は】っけん・気付く 【ル】ートを考えつながら 【え】がおを創り出す

久遠



春江中学校教育目標

- 自ら進んでよく学び、協力して働く生徒
- 規律を守り、責任を重んずる生徒
- 心身ともに健康で、思いやりのある生徒

藤ノ川関の相撲から学ぶ

校長 横枕 耕史

今年度も残り2ヶ月となり、1・2年生は進級に向け、これまでの自分の取組を振り返り、成果と課題を分析し、目標ある生活を送ることが大切です。3年生は卒業後の「なりたい自分」に向けベストを尽くし、自らの進路を確定してほしいと願います。

さて、春江中学校を令和3年3月に卒業した先輩 齋藤 成剛さん、四股名「藤ノ川」関を紹介します。彼は、現在、大相撲の世界で最も若く勢いのある力士の一人です。元力士である父の甲山親方の長男として5歳から相撲を始め、春江中学校3年生の時に全国少年相撲選手権大会で団体優勝。埼玉栄高校に進学し3年時に相撲部主将を務め活躍し、高校3年の令和5年1月場所で本名の「齋藤」で大相撲の初土俵を踏み、同年3月場所より父の現役時代の四股名にちなんだ「若碇」を名乗り、同年7月場所7戦全勝で三段目優勝を果たし、幕下へ昇進。令和6年11月場所で初土俵から約2年で新十両に昇進。令和7年7月場所で幕内昇進し新入幕を果たし、これを機に伊勢ノ海部屋の由緒ある名跡である「藤ノ川」に改名。この場所で10勝5敗の好成績を挙げ、敢闘賞を受賞。令和8年1月場所では、自己最高位の西前頭7枚目として出場し、相手が誰であっても自分の相撲を貫き、10勝5敗で勝ち越しを決めました。

私は相撲に関して素人ですが、藤ノ川関の気持ちのいい相撲は本当に素晴らしいと思います。身長177cm 体重122kgの体格は、大相撲力士の中では「小兵」と呼ばれていますが、彼の相撲は、土俵に上がれば、眼光鋭く何度も足元を慣らし、闘志むき出して負けない強い気持ちと気迫を観衆に見せてくれます。そして、立ち合いは、冷静に相手を見ながら、自分より何十キロも重い巨漢力士を相

手に、ごまかしや姑息感がなく真正面からぶつかっていく正攻法の相撲で挑み、相手から強烈な張り手で弾かれても粘り強く立ち向かい、技を活かして押し倒す。小兵力士ながら下から突き上げるスピード相撲が持ち味の素晴らしい力士です。

では、藤ノ川関の取組から、後輩である春江中学校の生徒にぜひ学んでほしいことを挙げます。

「自分には無理」という心のブレーキを外す

彼は体が小さくても「小細工」に逃げません。気迫で負けず、真っ向からぶつかります。皆さんも「勉強が苦手だから」「才能がないから」と逃げ道を作らず、まずは全力で目の前の課題に頭からぶつかる勇気を持ってください。

自分の弱点を「強み」にポジティブ変換する

体が小さいことは、裏を返せば「素早く動ける」ということです。自分の足りない部分を嘆くのではなく、「この条件で勝つにはどう工夫すればいいか」を必死に考える。その「工夫する力」こそが、社会に出た時に最も役に立つ「武器」になります。

「正々堂々」が一番強いことを知る

ズルをして得た結果は、自信にはつながりません。藤ノ川関のように強い相手に正面から挑んでいく姿勢は、周りの人を感動させ味方を増やします。信念を持ち積極的に堂々と行動することが大切です。

未来を担う子どもたちが、これから出会う勉強や進路という「大きな壁」が立ちはだかるとしても、藤ノ川関のように、自分の武器を活かし、スピードと工夫、そして折れない心があれば、どんな巨漢(困難)も押し倒せるはずです。

最後に藤ノ川関の今後のご活躍を全校生徒とともに応援しています。頑張ってください。